

令和7年11月10日発行

笑顔

(写真：十日町高校写真部)



CONTENTS

No.88

令和6年度決算審査	2-3P
一般質問	4-9P
議会をPick-Up!	10P
議案の審議結果	11P
政務活動費による活動	12P
議会レポート	13P

9月定例会に上程された令和6年度の各会計決算について、決算審査特別委員会を設置し、審査を行いました。

委員会は、村山達也議長と根津年夫監査委員（議会選出）の2人を除く17人で構成され、より詳細な審査を行うため3つの分科会に分かれ、「決算書」や「主要な施策の成果報告書」などの資料を基に審査し、採決の結果、すべての会計で決算が認定されました。

審査過程での要望・意見について、委員長の審査報告から主な内容をお知らせします。



決算審査特別委員長
遠田 延雄 議員

一般会計の前年度比

歳入 +8.6%
歳出 +9.3%



令和6年度決算の詳細は、「市報とおかまち10月号」に掲載されています。

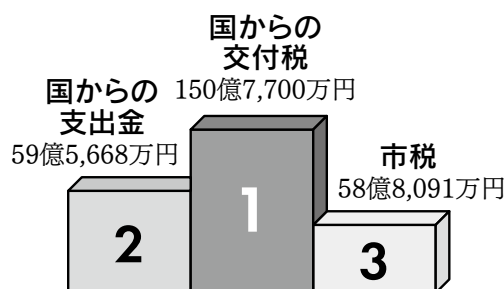
令和6年度各会計収支

会計名		歳入	歳出
一般会計		408億6,015万円	389億3,771万円
特別会計	国民健康保険	50億1,946万円	48億2,652万円
	国民健康保険診療所	3億7,124万円	3億4,183万円
	訪問看護事業	5,810万円	4,602万円
	後期高齢者医療	8億5,128万円	8億3,384万円
	介護保険	79億3,302万円	76億7,632万円
	松之山温泉配湯事業	2,459万円	1,891万円

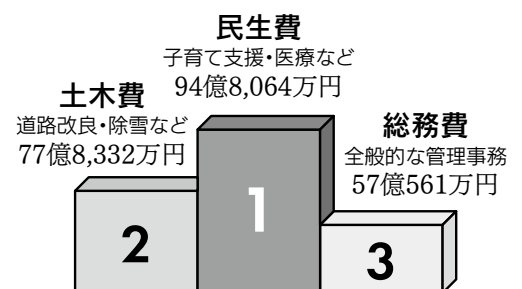
決算審査特別委員会とは？

議会が、各会計の決算についてその内容を審査した上で、収入・支出が適法かつ適正に行われたかどうかを確認するために設置されるものです。

歳入 入ったお金トップ3



歳出 使ったお金トップ3



総務費 人口減少問題については、全庁的な取り組みと共に、市民との危機意識の共有を図り、「オール十日程」での取組推進を望みます。また、県内トップ



第1分科会

◆一般会計
歳入 市税の収納率が高いことは評価しますが、納税は市民に等しく課せられた義務であり、支払能力に配慮しつつも、滞納に対しては適切かつ強い対応を望みます。また、人口減少に伴う税収入の減収が懸念されることから、人口減少対策と地域経済が循環する仕組みづくりを進め、景気回復と安定的な財源確保を図るよう、取り組みをお願いします。



第2分科会

の支援策である「UIターン者向け補助金」については、継続をお願いするとともに、効果的な情報発信や定住に向けた取り組みをさらに強化されるよう望みます。あわせて、関係人口についても、ふるさと住民登録制度の創設などの国の動向を注視し、取り組みをお願いします。

民生費 私立保育所等運営事業について、少子化に伴い各園の運営及び経営の難しさ、厳しさがあります。現場の状況を把握し、先を見据えた適切な支援と適正配置を望みます。

衛生費 周産期医療継続支援事業について、十日町市内で出産することができなくなるのではないように、情勢に合わせた対応を求めます。

農林水産業費 米の生産量を増やすために、多様な経営主体が協力して米生産を支える仕組みを構築することが急務です。田んぼアートや棚田など当地域の特徴を生かしたブランド力強化により農業所得の向上に取り組みとともに、特に中山間地域では、農業用水の確保が難しく、今夏のような状況が続くと、米の生産を継続することが難しい地域もあることから、中山間地域における水源確保への支援を望みます。

土木費 特定空家への対処について、市民生活を脅かす恐れのある建物が今後増えていく可能性が高いことから、これまで以上に関係機関との連携を図り、安全・安心な地域づくりに取り組まれることを望みます。

教育費 体育館への空調設備の設置は急務であり、特に夏季利用時の安心・安全の確保が十分に図られていない状況です。そのため、中学生の広域大会やプロスポーツの試合の誘致にも大きな支障が生じています。さらに、中学校部活動の地域移行に伴い、市の体育館の利用機会が増加しており、施設の一層の充実が求められています。老朽化による改修が必要な施設や美



第3分科会

観の低下が見られる施設も多く、各種大会や合宿、練習での利用離れが懸念されます。市内全域の体育施設について、計画的な改修を進めていただきたい。

◆訪問看護事業特別会計
出向く医療は民間事業者が撤退していく一方で、需要はますます高まるが見込まれます。必要な人材及び財源の確保に努め、事業の更なる進捗を望みます。

◆下水道事業会計
現在、将来に渡る持続可能な下水道事業運営のため、下水道使用料の改定が検討されていますが、施設の統廃合をはじめ、多角的な視点から検討をいただき、できるだけ使用料の上昇を抑えるような検討を望みます。

討 論



反対 市民の暮らし応援 の財政転換へ

前年度は、温浴施設利用料、水道料金等値上げ続き。地方自治法の「住民の福祉増進」から

決算に反対。一般会計の増加費は公共事業、芸術祭への投資が重点。特に、大地の芸術祭推進費は商工費全体の約4割を占めている。事業費を縮小し、市民参加の芸術祭への移行を提案する。中学校統合は、「地域とともにある学校づくり」について地域住民全体で議論すべき。農業は、農地の維持や食料確保に対応した市独自の農業支援を求む。後期高齢者医療、介護保険、水道事業、簡易水道事業は、低所得者への対応検討を望む。

富井春美 議員

賛成 健全財政と 施策成果を評価

令和6年度市決算は、物価高騰と記録的豪雪下のなかでも健全な財政運営を実現した。歳入は551億1783万円、歳出は526億8115万円であり、市債残高は35億円超減少し、財政調整基金は27億円超を維持した。

歳入では「とおかまち応援寄附金」が12億円超の過去最高を記録。歳出では、豪雪対策として要援護世帯への除排雪援助に4124万円を投じ、迅速に対応。子育て支援では、20代女性の子宮がん検診無料化で受診者が倍増。移住促進では、移住コンシェルジュと空き家バンク活用で成果を上げた。これらの実績は、財政健全化と市民福祉向上の両立に繋がっている。

結びに少子高齢化対策として、子育て支援の強化。保育士の処遇改善、子育て世代の経済的支援、子育て環境の整備の拡充を要望し賛成する。

山家悠平 議員

詳細は、9月定例会
最終日の録画中継を
ご覧ください。



ココが聞きたい! 一般質問

一般質問は、議員個人が問題意識を市政に投げかけ、市の見解を直接求めることができる唯一の機会です。今回は、11人が私たちの生活に関わることについて質問をしました。

質問議員	質問事項	ページ
星名大輔	米農家の所得向上について	4
市川直子	十日町市における分娩体制の維持	5
滝沢青葉	「日本遺産」の総括評価・継続審査の結果の対応について	5
俵山裕	少額随意契約について	6
野沢浩平	持続的な上下水道の整備と豪雨災害対策について	6
滝沢繁	松代病院の無床診療所化について	7

質問議員	質問事項	ページ
樋口富行	暮らしと農業を応援し元気な地域づくりを目指して	7
根津年夫	十日町市の中心市街地活性化対策と少子化対策について	8
富井春美	柏崎刈羽原発再稼働について	8
大嶋由紀子	未来を支える「こどもまちづくり」へ本気の一手を!!	9
水落静子	十日町市立中学校の学区編成に向けた取り組み状況を問う	9



米農家の所得向上について

星名大輔 議員



質問 近年の容赦ない日照りを前に、井戸の設置、番水に係る諸経費の補助等さらなる渇水・高温対策が必要ではないか。

答弁 地域の実情に応じて有効な手段が異なります。恒常的な水不足の解消に向けては、ため池や農業用井戸の設置に対し、国や県の支援制度を最大限に活用するとともに、地元負担に対する市の支援についても検討します。また、番水に係る諸経費については、多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金の活用ができることから、その周知を図ります。

質問 棚田やきもの魅力を付加価値としたブランド化の取り組みについて

答弁 棚田については、今年の3月末に設立された十日町市つなぐ棚田遺産連絡協議会の活動の一つとして、つなぐ棚田遺産で生産された日本一の棚田米のブランディングと、ふるさと納税制度を活用した販路開拓の取り組みが進んでいます。また、きものについては、販売用の米袋にきもの柄を活用する動きがあります。市内の織物会社から無償でデザインを提供いただく代わりに、米袋に織物会社の紹介を掲載するものです。農業と織物の新たな連携



根本的な渇水・高温対策

として、事業者同士の具体的な協議が進んでいるところです。

質問 より多くの米農家からふるさと納税に参画してもらう取り組みについて

答弁 昨年度の当市へのふるさと納税に対する返礼品割合は、米が6割を超えています。今年度も引き続き、制度周知を目的としたセミナーの開催や、個別の事業者訪問など、ふるさと納税制度の活用を後押しし、所得向上を目指す事業者、農業者の皆さんを応援していきます。



十日町市における分娩体制の維持

市川 直子 議員



質問 現在、市内で分娩を担っているのは、たかき医院のみという極めて厳しい体制である。①現在の市内分娩体制に対する市長の認識を伺う。②分娩体制の維持に関して、市としてどのような役割・姿勢で臨むかを伺う。③今後の分娩体制維持に向けた具体的な対応策についてどのような検討をしているか。④十日町病院とたかき医院との間で、人的支援を含む連携強化の可能性について市としての見解を伺う。

答弁 ①県からは出生数や大学産婦人科医の減少、働き方改革、病院経営改革により産婦人科医の集約化は避けられないと伺っています。たかき医院においては人件費や物価上昇、人材確保等の面から経営環境にも少なからず影響があると考えています。このため同院のみでの分娩体制は厳しく、十日町病院に分娩再開を強く求めるものです。②市は、地域医療の一端を担う基礎自治体として、分娩を含む医療体制の継続に向け、関係機関と調整・連携を図り、安心して出産・子育てができる環境づくりに努めます。③市では、令和4年度から就業支度金支給対象に助産師を追加し、今年度からは看護師・助産師の新たな雇用に係る経費も補助対象とする支援を実施していますが、現場では助産師が確保できていません。分娩体制の維持は将来のまちづくりに直結する重要なテーマですが、市の支援にも限界があるため、十日町病院の分娩再開を強く求めています。④県病院局からは、民間派遣業者を通じた人材確保の提案や、十日町病院からは、夜間の帝王切開の際、必要に応じ医師派遣を受けるなど、可能な範囲で連携がなされていると認識しています。今後は双方の役割分担を明確にした上で、分娩体制維持に向け連携強化を進めてほしいと考えています。



命の始まりよーいドン！安心して出産できる環境を守りたい



「日本遺産」の総括評価・継続審査の結果の対応について

滝沢 青葉 議員



質問 平成28年度に文化庁に認定された日本遺産の『なんだ、コレは！』信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』について、条件付認定地域になっております。認定継続となるか取り消しとなるか不透明な状況です。その中で、①十日町市として今後、このストーリーを維持していくつもりですか。市町村をまたいだ連携が大切であるがどのような取組を進めてきましたか。②審査基準において未達だった点についてどのような対策を行いましたか。

答弁 ①令和5年度に協議会組織体制を強化したことで、市町間の連携上の課題は改善し、事業も活発化しました。また、観光と文化財分野の有識者を地域プロデューサーとして招聘し、専門的助言も得ています。令和6年度には日本遺産を通じた中長期戦略を策定し、地域の将来像の共有化が図られました。②「なんだ、コレは！」のストーリーの下で一体となって事業に取り組むことが、本市の国宝笹山遺跡出土品をはじめ県全体の縄文文化の価値を高めるものです。他市町と連携してストーリーを生かした地域活性化に取り組めます。②令和4年度の審査で、文化財活用を通じた広域的な地域振興への取組不足

等が指摘され、新たな地域活性化計画に基づき事業を展開しました。観光誘客のためマーケティング戦略を策定してコンセプトやターゲット層を定め、各市町の博物館のビジュアルセンター化などに取り組みました。これにより、6市町の観光入込数は増加し、その他評価項目の目標を達成しました。さらに今年は、魚沼市で歴史資料館が3月に、津南町でも埋蔵文化財センターが10月に開館と周辺施設の充実も図られています。当市でも令和6年度から笹山縄文広場の整備を開始し、体感できるフィールドの整備を計画しています。





少額随意契約について

俵山 裕 議員



質問 国は、昨今の物価水準の上昇、資材及び労務単価の高騰等により、令和7年4月1日に少額随意契約の基準額を見直しました。本市における少額随意契約の取扱いについて伺います。

①今後の基準額等を改定する考え、並びに予定は。②制度改正後の周知方法は。③基準額の上限金額についてはどのような考えをお持ちか。

答弁 ①当市でも基準額の改定に向けて現在準備を進めているところです。少額随意契約の改定には、この基準を規定している十日町市財務規則の改正が必要となっており、この財務規則に関連する要綱や事務マニュアルなども含め、慎重に改定作業を行っているところです。

また、改正の時期について、可能であれば年内に、遅くとも今年度内に見直し案をまとめ、関係事業者に周知したいと考えています。

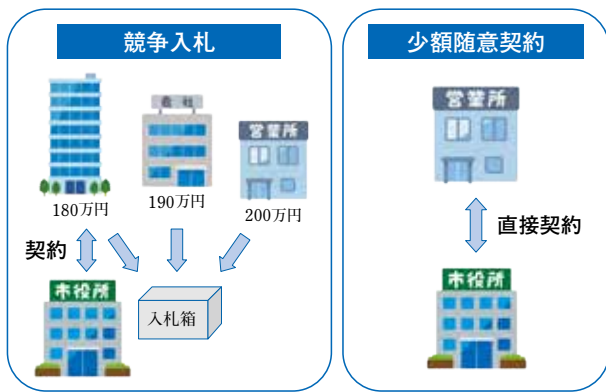
②周知方法として、市のホームページを予定しております。

また、本年度は入札参加資格の審査申請を受け付ける年度であることから、このタイミングに周知を合わせること、関係する事業者がその入札参加資格の申請内容を検討する一つの判断材料となり、一定のメリットがあるものと考えています。

③少額随意契約の基準額の上限については、基本的には国が示している金額を基に検討を進めているところです。

※少額随意契約とは

一定の金額以下の契約において、競争入札を行わずに業者と直接契約できる制度です。公共調達では競争入札が原則ですが、少額随意契約は手続きを簡略化することができます。これにより、契約締結の迅速化や事務負担の軽減が図られ、小規模事業者との取引が促進されます。



持続的な上下水道の整備と豪雨災害対策について

野沢 浩平 議員



質問 持続的な上下水道の整備と老朽化対策について

答弁 当市の水道普及率は99・5%と全国平均を上回っており、下水道の汚水処理人口普及率についても95・8%と、全国平均や同規模自治体の平均を上回っています。また、水道、下水道ともに一部の施設で更新時期を迎えていることから、施設の長寿命化計画に基づき、更新や耐震化を計画的に進めています。

質問 上下水道施設の統廃合の現状と今後の予定について

答弁 水道事業では、簡易水道区域の統合を進めており、東下組や白倉の統合が完了しています。今後も松之山など各地域での検討を進めていきます。下水道事業では、公共下水道と農業集落排水との統合を進め、吉田北部処理分区の統合が完了しています。引き続き、鏡島や下条地区の統合を図り、持続可能な事業運営を目指します。

質問 集中豪雨時の排水対策について整備状況は。

答弁 これまで関係機関と連携しながら様々な対策を進め、県では一級河川の護岸復旧や河道断面の拡張整備、市では排水トンネル整備などによる洪水



平成23年7月 豪雨災害状況

対策や市街地での雨水渠整備により、雨水排除機能が格段に向上しました。

質問 豪雨災害発生時の避難誘導対策について

答弁 全世帯に防災ハンドブックを配布し、災害発生時やそのおそれのある場合は、新たに整備した防災行政無線や十日町あんしんメールなど複数の伝達手段により一斉に緊急情報を発信し、迅速な避難を呼びかけるようにしています。さらに、地域防災力の強化を図るため、自主防災組織等の活動支援や研修会の開催、定期的な防災訓練などを実施しています。



松代病院の無床診療所化について

滝沢 繁 議員



質問 県は赤字を理由に松代病院の無床診療所化を進めようとしています。赤字解消に松代病院の診療所化は第1義的な課題と思われませんか。

答弁 松代病院の赤字解消が、すぐさま県立病院経営改革に直結するものではないと思います。県病院局では、松代病院に受診する方々の特徴から、十日町病院に入院機能を移す方が、患者や、市内の医療機関にとってもよりよいとの説明をしています。市民の意見や活動を十分に踏まえながら、県と話をしていきたいと考えています。

質問 県立病院経営強化プランの立場で、県に対し松代病院無床診療所化の撤回、病院の存続を求めているだけではないかがか。

答弁 プラン策定後に様々な事情・変化があり、大きく方針転換されたものと考えざるを得ず、市として県病院局の責任者に聞いたです必要があると思っています。市も診療所を運営しており、経営者としての判断は常に求められています。県が大きな方針転換、そしてまた新たな方針を明示している中で、市民の思いを伝えつつ、県立病院を核とした今後の地域医療のあり方について、県と話し合い、共に安心でき

●令和6年度決算 病院別の経常損益(一般会計繰り入れ後)の状況 (単位: 円)

	病院名	R6年純損益	計	R5年純損益	計	増減
広域圏・地域中核病院	中央	▲3億3500万		3億3500万		
	新発田	▲7億	▲24億3400万	1億8300万	▲3億3900万	▲20億9500万
	十日町	▲13億9900万		▲8億5700万		
専門病院	リウマチ	▲2億2800万		▲2億4900万		
	がんセンター	▲6億800万	▲9億4100万	▲2億3100万	▲4億8100万	▲4億6000万
	がん予防	▲1500万		▲1200万		
	精神医療センター	▲9100万		1100万		
地域医療病院	坂町	1900万		7350万		
	松代	▲3300万	▲1億1000万	▲960万	1億7000万	▲2億8000万
	柿崎	200万		1000万		
	津川	▲3700万		5050万		
指定管理移行	妙高	▲6100万		4540万		
	加茂	▲6億2700万	▲11億1800万	▲7億3800万	▲16億6200万	5億5400万
	吉田	▲4億9100万		▲9億2400万		
県立病院合計		▲46億300万		▲23億1200万		▲22億9200万

令和6年度 新潟県病院事業会計決算資料より抜粋 滝沢 繁 作成

る医療体制を十日町市内につくり上げていきたいと考えています。

質問 医療制度が地方の医療を衰退させているのであれば国に強く働きかけていただきたいかがか。

答弁 本年5月30日、花角知事が国に対し、臨時的な診療報酬改定を含む緊急的な支援の実施等を要望しました。物価高や人件費の上昇が続く中、令和8年度の診療報酬改定では改善に向けた適切な対応がなされるものと考えています。国への働きかけについては、県や県内自治体と連携を図りながら、適時適切に対応していきます。



暮らしと農業を応援し元気な地域づくりを目指して

樋口 富行 議員



質問 政府は米の増産政策を掲げているが、①耕作面積が減少傾向にあり、高齢化も進む状況で、増産することができるのか。②中山間地域には、国土保全や多目的機能の維持のため、多額の資金が20年間投じられてきた。この地域は昔から農業を生業にしてきたが、農業が衰退すれば地域も衰退する。そこで、兼業農家や中小規模の農家等にも農機具更新の補助金を設ける考えはないのか何う。

答弁 ①国は、令和8年の夏頃までに政策の具体的な方向性をまとめ、増産に向けて農業経営の大規模化や法人化、スマート農業の推進による生産性の向上、消費者ニーズに応じた付加価値の向上などに取り組むとしています。しかしながら、農家の減少や高齢化をはじめ、耕作放棄地となった農地の復旧や中山間地域の農地集積は困難が予想され、米の増産に向けた課題は多いと感じています。市では地域計画における目標地図の見直しを行う予定で、各地域で農業委員と農地最適化推進委員が主体となった話し合いの場

が設けられます。米の増産に伴う耕作面積の変化を注視するとともに、関係機関と連携して農地の集積と集約に取り組んでいきます。②市では、農業機械等の購入を支援する「担い手経営発展支援事業補助金」を設け、補助対象は認定農業者、認定新規就農者、3人以上の農業者で構成される団体、農業参入法人としています。なお、経営面積を翌々年度に10%増を要件としており、地域計画が目指す農地集積、集約に資する農業者を支援することを目的とした事業です。国の方針では、新たな担い手を発掘し、認定農業者や法人以外でも意欲のある方を支援する考えもあることから、市としても検討が必要と考えています。



頑張る多様な担い手



十日町市の中心市街地活性化 対策と少子化対策について

根津 年夫 議員



質問 まちの顔であるべき中心市街地の衰退が全国各地で進み、人通りや賑わいが失われています。そこで中心市街地活性化についての①取り組みと成果②空洞化対策(空き家の利活用)③起業への支援④今後の課題を伺います。

答弁 ①民間事業者により、いこてやアップルとおかまちが整備され、また分じろう、十じろう、段十ろうを整備し、新たなにぎわいが生まれました。②平成27年度から空き家バンク制度を設け、令和6年度からは、ミッシヨン型地域おこし協力隊を1名配置し、相談や申請受付、物件調査などを担当していただいています。③開業経費の補助制度の設立や、ビジネスプラン審査会で優秀と認められた事業プランへの上乗せ補助を行っています。④にぎわいの維持・創出が課題であり、民間事業者への支援も含め検討しています。

質問 少子化の進行が急速に進む中、出会いから子育てまでの支援について①婚活支援の取り組みと実績②未婚化・晩婚化対策③若者への結婚支援④女性が子育てをしながら働き続けられる環境づくりへの取り組みを伺います。

答弁 ①平成27年度から、ハピ婚サポートセンターを設置し、各種相談対応、



詳しくは右の二次元コードからホームページをご覧ください。



マッチング支援などを行っており、昨年度のマッチング件数は82件、婚活イベントは4回開催し、17組のカップルが成立しました。②サポートセンター設置の他に、ハピ婚サポーターを配置し、同センターの案内や40歳後半までを対象とした婚活イベントなどを実施しています。③結婚や子育てに不安を抱えている若者が多いことから、今年度、高校生を対象に、結婚・子育てに関するライフデザインセミナーを開催します。④経済的な面で支援できる政策に取り組み、選ばれて住み継がれる十日町市となることが重要であると考えています。



柏崎刈羽原発再稼働について

富井 春美 議員



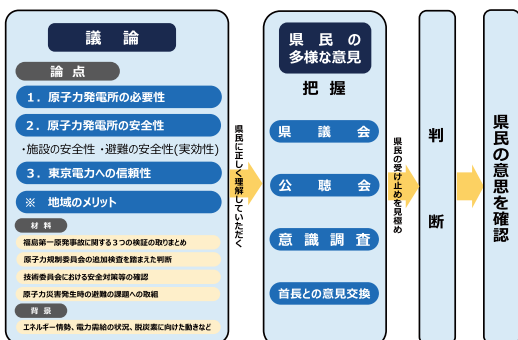
質問 柏崎刈羽原発の再稼働について①知事と首長の懇談会が実施されたが市長はどのような意見を発言したのか。②県が行う県民意識調査の十日町市の対象者数は大変少ないと考える。県民意識調査で、市民の考えが把握できると考えているのか伺う。

答弁 ①知事から意向を問われた際、再稼働に関する市民の意見を正確に取りまとめ、お伝えすることが市長の使命であると伝えました。加えて「電源三法交付金」や「原発特措法」など、不公平な制度を事前に見直し、再稼働のリスクとメリットを整理した後でなければ、正しい議論にならないと伝えました。②県民意識調査では、統計学上有意味な回答が期待できる数の調査票を配布するよう要望しました。これにより、UPZ自治体での調査数が増え、あわせて自治体ごとの調査結果が公表されることとなったので、市民の意向を把握する一つの有力な手法になると感じています。

質問 県民意識調査よりも県民投票の方がより県民の意識を把握できると考えるが、いかがか。

答弁 一番いいのは県民投票かもしれませんが。当市の住民投票条例では一つ

柏崎刈羽原子力発電所の再稼働問題について





未来を支える「こどもまちづくり」へ本気の一手を!!

大嶋由紀子 議員



質問 本市は平成23年から公立保育園の民営化を進め、現在公立園は4園と数少なくなりました。令和7年7月30日、十日町市こども連盟様より緊急要望として、昨年に続いて2回目の要望書が提出されました。公立保育園の再編について、その中には全年齢における受入れ縮小や近隣園との統合についての要望も書かれています。①少子化

②子どもの健やかな成長環境の確保について

答弁 ①公立保育園の統廃合や民営化を進めましたが、少子化の進行により園児数が年々減少し、定員を減らして運営する園もあります。この状況を踏まえ、市全体の適正な施設数と配置を検討することが、持続可能な保育・教育環境を確保する上で重要であると考えます。今年度、開始した十日町市こども計画に基づき、こどもたちの健やかな成長環境を最優先に考え、保護者や地域の理解と協力を得ながら、将来を見据えた適正な保育園、こども園の数と配置の実現に努めます。

②こどもの成長環境の確保、とりわけ保育や子育て支援の充実に関



平成29年に完成した「きらきら西保育園」
9年経過した現在、受入縮小を実施中(令和6年出生数164名)

しては、将来の十日町市を支える人づくりの基盤であり、最重要課題の一つとして認識しています。市は私立園への運営助成や病児・病後児保育、一時預かりなど多様なニーズに応じた施策を展開し、保育の質と量を確保してきました。また、児童センターめぐらんどやファミリーサポートセンターの活動を通じ、家庭や地域が連携して子育ての孤立防止の仕組みづくりに取り組んでいます。さらに、年長児から小学校への架け橋期には幼保小の連携を進めるなど、今後も人口動態や保護者の就労環境の変化を踏まえ、安心してこどもたちを産み育てられる環境整備に努めます。



十日町市立中学校の学区編成に向けた取り組み状況を問う

水落 静子 議員

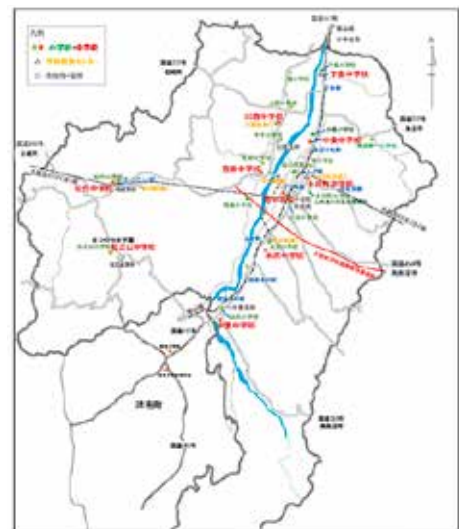


質問 中学校の学区再編協議の結果、地域自治組織の意見と今後の取り組み、予定を問う。

答弁 昨年度から地域自治組織単位で意見交換会を行っており、教育委員会が再編の方向性を示すべき、保護者や地域の意見を踏まえた魅力的な中学校をつくるべき、将来に向け最初から1校で検討すべきとの声が多く寄せられました。これを受け教育委員会では、魅力ある市立中学校づくりの方針を定めることとし、「十日町みんなの学校“プロジェクト”」を設置しました。グループワークによる意見交換を中心に、保護者や地域住民など各委員が新しい学校の姿を思い描きながら、建設的な意見を出し合い、それらを総合的に踏まえて方針をまとめ、実りある学区再編につなげたいと考えています。

質問 市内の中学生数について、現在の状況と、5年後・10年後の見込みを問う。

答弁 令和7年5月1日現在、市内には中学生が1,145人おり、うち976人が市内の中学校に通っています。5年後は約930人のうち790人が、10年後は約620人のうち530人が市内の中学校に通うと見込んでいます。



中学校編成学区位置図

質問 今回の学区編成にあたっては、それぞれの地域の歴史や成り立ち、大地の芸術祭を通じて生まれた交流などを踏まえる必要がある。地域に誇りや親しみを持てる十日町らしい学校づくりを進めてほしいと考えるが。

答弁 中学校で地域の歴史や文化の成り立ちなどを学ぶことは、とても大切であり、新しい中学校でもより広い視野で生徒が多様な個性や意見を尊重し合い、探究的な学びとなる学習活動が重要と考えます。今後も地域と連携しながら、十日町市を愛し、自立して社会で生きることの育成に努めます。

9月定例会 (第3回)

● 議会をPick-Up!

令和7年第3回定例会
会期 9月3日～24日
審議の結果は、11ページに掲載

9月の定例会は、市長提出議案23件を審議しました。

Pick-Up
01

一般会計補正予算 (第6号)

(主な事業および内容)

● 議会ICT化推進事業

議会資料のペーパーレス化、議会活動の充実・強化及び議員・職員双方の議会関係業務の効率化を図るため、タブレット端末、会議支援ソフトウェアの導入及びWi-Fi増設整備を行います。



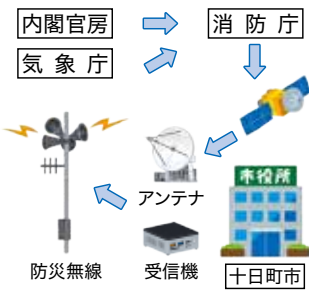
● 布川地区交流体験施設

維持管理経費

藤倉ハウスに入居する寮生の入居期間が令和10年度末まで延長されたことから、施設の維持管理経費を増額します。

● 全国瞬時警報システム
改修事業

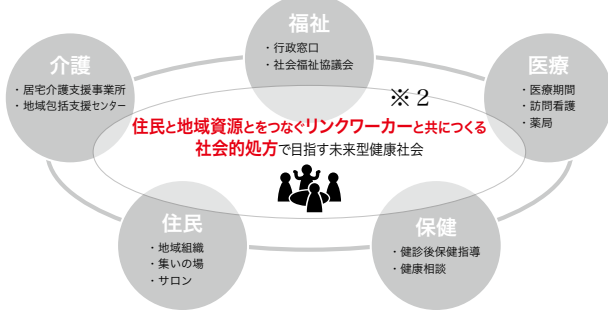
弾道ミサイル情報や緊急地震速報を携帯電話等に配信する「全国瞬時警報システム(Ｊアラート)」について、来年6月に国が予定している「新しい防災気象情報の配信」に対応するため、新型受信機への更新とＪアラート専用の衛星通信アンテナの整備を行います。



● 地域医療対策事業 (寄附講座負担金)

新潟大学に寄附講座として開設している「十日町いきいきエイジング講座」について、市民の健康増進に向けた「社会的処方※1」を用いた取り組みに必要な指導・助言を仰ぐための経費を増額します。

※1 住民の健康課題解決のため、薬の代わりに地域資源とのつながりを「処方」する仕組み



※2 支援を必要としている人を、住民の健康を支える(行政や民間の地域活動やサービス(地域資源))につなぐ役割を担う人

● 水稻渇水被害応急対策事業

少雨、高温による渇水対策に要した経費に対する補助金について、申請件数が当初の見込みを上回ることから事業費を追加します。



水田のひび割れの様子 (大白倉)

● 地域産業総合振興事業

市内事業所の従業員寮や住宅の整備を支援する補助事業について、6月の申請受付以降、当初の想定を上回る事業所からのニーズがあるため、増額します。

● 市道除排雪経費

豪雪による除雪機械の点検修繕費や春先除雪などの費用が増大したため、経費を増額します。

● 建造物等保存修理事業

県指定文化財である神宮寺(大井田地内)観音

堂の茅葺屋根等の改修工事を行うにあたり、ふるさと納税(ガバメントクラウドファンディング)の制度を利用して寄附金を募り、必要経費を差し引いた金額を補助金として支援します。



神宮寺観音堂

Pick-Up
02

条例の見直し

(主な事業および内容)

● 十日町市職員の育児休業等に関する条例の一部改正

地方公務員の育児休業法及び育児・介護休業法の一部改正に伴い、市職員の育児部分休業(無給)の取得形態の拡充や、会計年度任用職員の育児部分休業(無給)の取得要件の拡充等の見直しを行います。

Pick-Up
03

契約の締結

● 財産の取得

老朽化に伴い、川西にロータリ除雪車、松之山に小型除雪車をそれぞれを購入します。



9月定例会 議決結果

議案番号等	件 名	付託委員会	採決状況	議決結果
市長提出議案	83 専決処分の承認について（損害賠償の額を定めることについて）	—	全員賛成	承認
	84 専決処分の承認について（令和7年度十日町市一般会計補正予算（第5号））	—	全員賛成	承認
	85 財産の取得について	—	全員賛成	原案可決
	86 財産の取得について	—	全員賛成	原案可決
	87 損害賠償の額を定めることについて	—	全員賛成	原案可決
	88 十日町市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例制定について	総務文教 常任委員会	全員賛成	原案可決
	89 十日町市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例制定について	総務文教 常任委員会	全員賛成	原案可決
	90 十日町市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例制定について	総務文教 常任委員会	全員賛成	原案可決
	91 十日町市税条例の一部を改正する条例制定について	総務文教 常任委員会	全員賛成	原案可決
	92 十日町市入湯税条例の一部を改正する条例制定について	総務文教 常任委員会	全員賛成	原案可決
	93 令和7年度十日町市一般会計補正予算（第6号）について	—	全員賛成	原案可決
	94 令和7年度十日町市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について	—	全員賛成	原案可決
	95 令和7年度十日町市介護保険特別会計補正予算（第2号）について	—	全員賛成	原案可決
	96 令和6年度十日町市一般会計歳入歳出決算認定について	決算審査 特別委員会	賛成多数	認定
	97 令和6年度十日町市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	決算審査 特別委員会	全員賛成	認定
	98 令和6年度十日町市国民健康保険診療所特別会計歳入歳出決算認定について	決算審査 特別委員会	全員賛成	認定
	99 令和6年度十日町市訪問看護事業特別会計歳入歳出決算認定について	決算審査 特別委員会	全員賛成	認定
	100 令和6年度十日町市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	決算審査 特別委員会	賛成多数	認定
	101 令和6年度十日町市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	決算審査 特別委員会	賛成多数	認定
	102 令和6年度十日町市松之山温泉配湯事業特別会計歳入歳出決算認定について	決算審査 特別委員会	全員賛成	認定
	103 令和6年度十日町市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	決算審査 特別委員会	賛成多数	認定
	104 令和6年度十日町市簡易水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	決算審査 特別委員会	賛成多数	認定
	105 令和6年度十日町市下水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	決算審査 特別委員会	全員賛成	認定

賛否等の状況

賛否が分かれた議案のうち、起立採決等により個々の賛否が明らかな議案について掲載。（○：賛成、×：反対、—：欠席）
※村山達也議員は議長職のため、特別多数議決以外の議案については表決（賛成・反対の意思表示）権はありません。

議案番号等	議決結果	賛成	反対	かがやき					希望				日本共産党 十日町市議団				新成会				無会派	
				富井高志	山家悠平	水落静子	鈴木一郎	市川直子	滝沢青葉	根津年夫	中林寛暁	遠田延雄	大嶋由紀子	滝沢繁	富井春美	樋口富行	星名大輔	野沢浩平	福崎哲也	俵山裕	小林正夫	村山達也
83	承認	18	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
84	承認	18	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
85	原案可決	18	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
86	原案可決	18	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
87	原案可決	18	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
93	原案可決	18	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
96	認定	15	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	※
100	認定	15	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	※
101	認定	15	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	※
103	認定	15	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	※
104	認定	15	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	※

お知らせします!

令和7年度 政務活動費申請状況

●政務活動費交付申請一覧

会 派	所 属 議 員	交 付 額 (円)
か が や き	富井高志、山家悠平、水落静子、鈴木一郎、市川直子、滝沢青葉、村山達也	1,050,000
希 望	根津年夫、中林寛暁、遠田延雄、大嶋由紀子	600,000
新 成 会	星名大輔、野沢浩平、福崎哲也、俵山 裕	600,000
日本共産党十日町市議団	滝沢 繁、富井春美、樋口富行	450,000
だ い ち	小林正夫	150,000
合 計		2,850,000

十日町市では、市議会議員の市政に関する調査研究などの活動に資するために必要な経費の一部として、申請を行った会派※に対し政務活動費を交付しています。交付額は会派に所属する議員1人につき年額15万円を交付しており、地方自治法及び十日町市議会政務活動費の交付に関する条例に基づき、適正に取り扱っています。

※所属議員が1人の場合も含みます。

政務活動費による活動の一部を紹介します。

※他の会派は次号に掲載します。



かがやき

7月15日から17日の3日間で、札幌市と倶知安町に伺いました。

札幌市では、GIGAスクール構想の取組状況と札幌AI道場を視察しました。GIGAスクール構想では、児童生徒一人一台端末の整備が進む一方で、現場における端末管理の負担や、ネットワークの分断といった課題があることが共有されました。また、札幌AI道場では、企業が保有する実データを活用し、地域に根ざした人材育成を進めており、その成果が新たなビジネスの創出につながっている事例を伺いました。

倶知安町では、多文化共生と観光DXの取り組みを視察しました。生活ガイドや「にほんごサロン」などの支援策は、外国籍住民の増加が見込まれる十日町市でも参考になる内容でした。

また、観光情報アプリや電子クーポンの導入は、「大地の芸術祭」など本市の地域イベントにも応用可能ですが、急速な観光成長が地域生活に与える影響にも配慮する必要があることを改めて認識しました。



希 望

7月2日から4日の3日間で札幌市、砂川市の視察を行いました。

札幌市では、「敬老パス」制度について視察しました。この制度は昭和50年に開始し、70歳以上の市民が自己負担額に応じて7万円まで公共交通機関が利用できるものです。制度開始当初は1.3億円であった事業費が、現在では68億円となり、市の財政確保が難しくなってきたことから、制度を見直し、新たな事業「札幌健康アプリ」への移行を目指しているとのことでした。この健康アプリは「歩く、健康管理、人と会う」

をポイント化し、電子マネーや抽選により景品などに交換できる仕組みです。反対の声など課題もあるようで、今後も注視が必要だと感じました。

砂川市では、(株)SHIROの「みんなの工場」を視察しました。工場では製造している化粧品の販売や、作業の完全見える化などを行っています。

また、地域の子どもたちが工場で働き、対価として工場内で使えるポイントをもらえるなど、学校と連携しながら、地域で働くことへの可能性に取り組んでいました。



議会レポート 管内視察報告

常任委員会は、所管事項に関する調査及び、議案・審査等をするために設置されています。十日町市議会には、総務文教・産業建設・厚生 の3つの常任委員会があります。

総務文教常任委員会



7月7日に管内視察を行い、まず、「笹山縄文広場整備基本計画」について、現地視察及び担当課より説明を受けました。令和39年までに総事業費16億円を投じて進められる大規模事業で、笹山遺跡を文化観光資源として有効活用する計画です。縄文体験や当時の風景に触れることのできる場として整備し、若い世代や日本文化に興味のある在日・訪日外国人、縄文文化に興味を持つ人々を対象に、市内の他施設や観光スポットと連携し、関係人口の拡大につなげることを目的としている旨の説明を受けました。

次に、水沢小学校の通級指導教室を視察しました。はじめに教育委員会から、十日町市の特別支援教育の取り組みについて伺い、特別な支援が必要な児童生徒が年々増加傾向にあること、乳幼児期から切れ目のない支援が行われていること、特別支援教育の課題等について説明を受けました。

続いて、通級指導教室の授業を参観し、授業は児童が興味を持てるよう工夫されており、児童は教師の話をしっかり聞き、理解できない点は質問し、楽しく学習に取り組んでいました。



産業建設常任委員会



7月22日に管内視察を行いました。昭和14年から続く信濃川の水資源活用状況と地域共生策を学習するため、JR信濃川発電所と十日町すこやかファクトリーを見学しました。

宮中取水ダムでは、生態系を維持する魚道観察室に行き、実際に遡上する魚を観察しました。次に取水口付近にて取水の様子を視察しました。取水口に貯まる流木などの塵芥の処理に課題を残しているとのことでした。

宮中ダムから取水された水を千手発電所へ送るための浅川原調整池では、発電量に伴ったゲートの



操作方法を学習し、実際にゲート付近を見て回りました。

千手発電所では、新たに更新された4基の発電機の稼働状況と、既設の1基について保存も含めた再利用方法を検討していることを研修しました。

また、取水した水は発電機以外にも農用水や消雪パイプなど活用されていることの説明を受けました。

十日町すこやかファクトリーでは地元産原料を活用した菓子作りの他に、特に食物アレルギーに対応した菓子製造に注力しているとのことでした。

厚生常任委員会



7月29日に管内視察を行いました。初めに十日町地域シルバー人材センターの状況を伺いました。

60歳以上の方が長年培った経験や技術を生かし、地域に貢献できる場を提供しています。草刈りや清掃、障子の張り替え、卒業証書の浄書など多彩な仕事を通じて「地域の担い手」として活躍されています。現在は、女性や退職者の入会促進や就業内容の魅力向上といった課題はあるものの、今後は地域団体や行政との連携を強化しながら観光関連業務への進出も検討しています。高齢者がこれまでの知識と経験



を活かし、地域で活躍いただくために、安心して働く環境整備の大切さを、樋口理事長様、水落事務局長様から伺いました。

次に、十日町福祉会「なかまの家」を視察しました。障がいのある方の生活支援や就労支援を行う施設で、今回は移転前の施設や運営状況を拝見しました。新たな場所ではより快適な環境と多様な活動機会の提供に取り組み、共生社会の第一歩を踏み出すお話を伺い、今後支援してまいりたいと感じました。

6月4日(水)
松代病院の無床診療所化
説明会



8月25日(月)
十日町おおまつりの
大民謡し



各種説明会・ 議員有志によるイベント 参加の様子



7月1日(火)
議会ICT化グループウェア
操作説明会



議会の中継・放送について

((●)) インターネットで

本会議の中継を配信しています。生中継のほか録
画中継もご覧いただけます。ホームページからアク
セスしてください。

十日町市議会

検索



ケーブルテレビ

上越ケーブルビジョンで生中継しています。
再放送は、会議開催日当日の午後7時からご覧いた
だけます。

FMラジオ

FMとおかまちで本会議での一般質問を、会議開
催日当日の午後7時から放送しています。

今号の表紙は

十日町高校写真部

の作品です。



今年度の十日町高校写真部は1年生10名、2年生3
名、3年生10名で活動してきました。

学校行事の撮影やコンテストへの応募、撮影会への参
加など、楽しく写真を撮っています。これからも見る人
に喜んでもらえるような写真を撮っていきたいです。

あとがき

議会だよりの表紙は、毎回
地元高校生の皆さんからご提
供いただいている写真です。
若い感性で切り取られた地域
の風景は、私たちが見慣れて
いる街並みや自然を新鮮に映
し出し、あらためて郷土の魅
力を感じさせてくれます。ご
協力いただいた生徒の皆さん
に心より御礼申し上げます。
市議会では、市民の皆様の
暮らしにかかわる課題につい
て、活発な議論と慎重な審議
を行っています。編集委員会
では、どんな話し合いが行わ
れているのか、少しでも身
近に感じていただけるよう、
これからも、できるだけ分か
りやすくお伝えしてまいり
ます。

野沢浩平

【お問い合わせ】

十日町市議会事務局

〒948-8501

十日町市千歳町3丁目3番地
市役所本庁舎3階

電話 025-757-3119

FAX 025-757-5999